

商 工 会 報

第 47 号

あ ち

発行 阿智村商工会
43-2241

編集 会報編集委員会

印刷 龍共印刷(株)



住みよい地域づくりや交流を

～青年部が便利大学を開催～

県内の青年部及び婦人部の統一事業のひとつで、地域に密着した青年部（婦人部）をアピールするため、部員の持つ特殊技能を地域住民の皆さんに還元し、生活に役立ててもらおう「便利大学」を、青年部では、初の試みとして2月16日に実施しました。

当初から、どんな事をしたら良いのか、皆で話し合った結果、部員の中に、調理師の資格を持つ者が大勢いることから、家庭料理を作る時に役立てていただければと、「魚のおろし方教室」を行うことになりました。

会場は、中央公民館の二階を借り、五名の部員が講師を務め、それぞれの得意分野で調理方法の説明を行った後、参加者も実践するという具合で進めていきました。

内容は、

①ニジマスの三枚おろし

大物のニジマスを、刺身、唐揚げの材料、寿司のネタにする。

②アジのひらき

ひらきにして、中骨を取り除き、フライの材料や、寿司ネタにする。

③イワシのひらき

包丁を使わずに、手開きにして、中骨を取り、フライの材料にする。

④タイの船盛り

タイのおろし方、大皿への盛り付け方の見学。

⑤にぎり寿司

マグロ、タコ、エビ、イクラに加え、おろしたニジマス、アジ、タイを使い、にぎりの

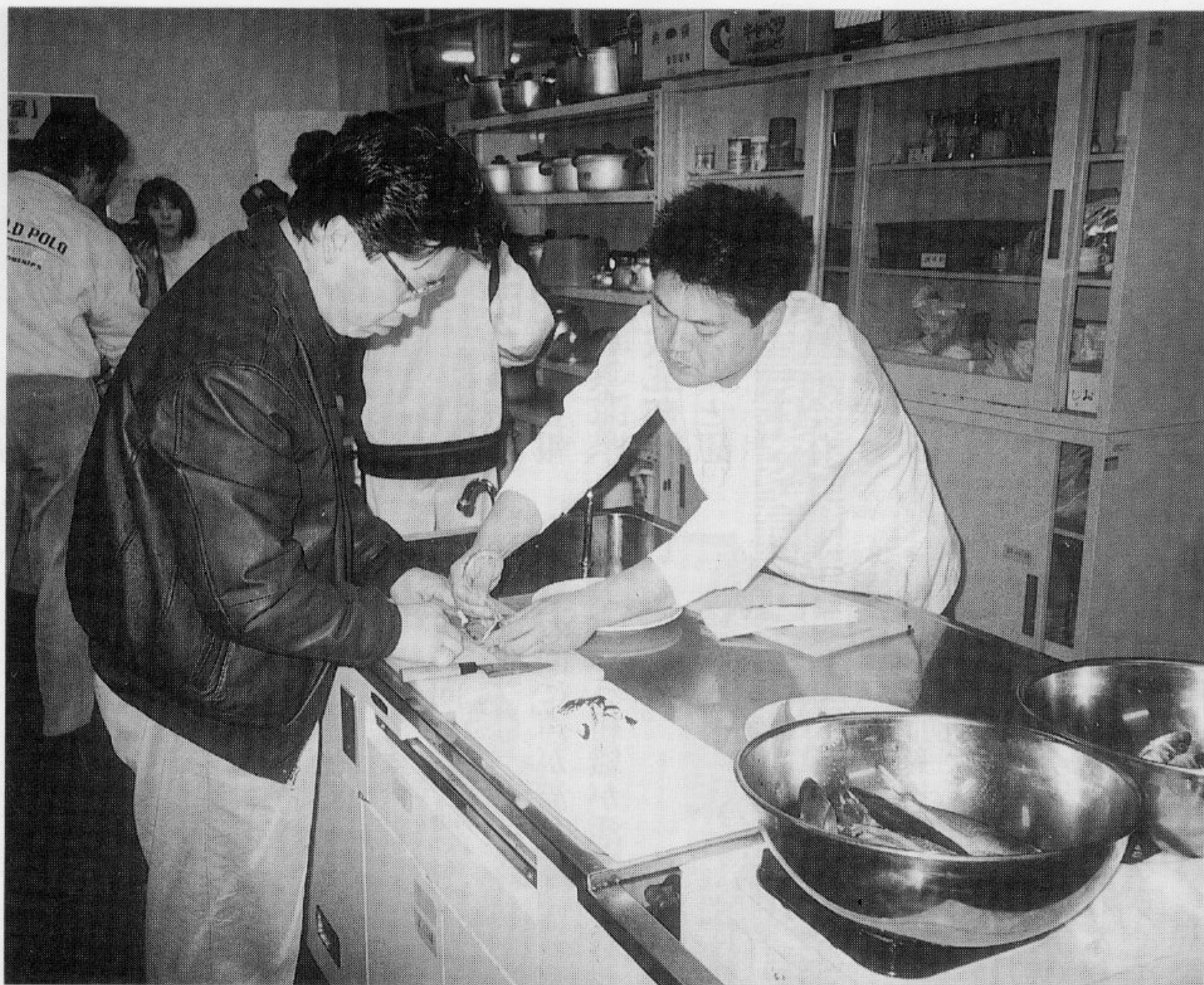
実践。

以上、短時間ではありましたが、「とても良い機会になりました」と、参加者からは好評をいただきました。講習後、程よくお腹も空いて、いざ試食会。自らがおろした魚料理に話もはずみ、いろんな方との交流会にもなったのではないのでしょうか。

今後もこのような「便利大学」の他、青年部員が団結して色々な事業を行い、地域の方々と交流をはかり、住みよい地域づくりに役立てればと思ふ次第です。

最後になりましたが、今回参加していただいた皆さんにお礼申し上げます。

副部長 渋谷秀文



慣れない手つきで：



ミレニアム記念記事 商工会報『あち』に寄せて

新聞教育研究所 所長 大内文一氏

西暦二〇〇〇年、節目の年をむかえ、最初の会報第四七号が発行される。そこで、創刊号から全号のクリニク（診断）をお願いしている大内先生に、商工会報「あち」に対しての総評をしていただいた。

昭和四十年頃から「情報化時代」という言葉が流行語になった。従来の「生産」に代わって「情報を制する者が世界を制する」と言われ、情報の持つ役割が重みをもちはじめたのである。

全国商工会連合会（全国連）はこれを受けて『会報は商工会の動脈である』をキャッチフレーズに商工会報の育成に力を入れはじめた。縁あって私がその専任講師に指名され、

る。まるで△官報▽である。これに比べて「あち」は初代の会報編集長・渥美貞己氏以来、伝統的に会員主導型で会報を作ってきた。この『読者感覚で会報を作る』姿勢こそ、親しまれる会報づくりの原点である。「あち」はこの理念を見事に紙面に具現している。

「あち」の第二の特長は、編集姿勢において「人間を大事」にしてきたことである。例えば珠算検定の記事はどこかの会報にも載っている。しかし、その大方は何級に何人合格した、と報じて済ませている。「あち」はかならず合格者の全氏名を載せている。そのうえ、一級合格者が出れば、その子供の顔写真と本人のコメントまで載せている。この気配りがいい。「人は、物よりも金よりも、人に一番関心がある」。この格言はジャーナリズムの原点であるが、「あち」はヒューマン・タッ

会報づくりの研修会に全国を駆けめぐることになった。以来三十余年——各地の商工会報のクリニク（紙面診断）をお引き受けしてきた。そんな訳で貴商工会が発行する「あち」も創刊号（五十九年九月一日）から拝見させてもらっている。ミレニアム（千年紀）と創刊五十号も近いので「あち」を外側から講評をしてほしい、と貴商工会から依頼された。率直に感想を書かせていただく。

「あち」の第一の特長はその発行体制にある。大方の商工会報は、経営指導員などの事務局の人が作っている。このため県連などからくる事柄を単に下げ渡す通知・告知の△文書▽になってしまっ

ちなのだ。ここを評価したい。「あち」のこの人間を大事にする編集姿勢が「わが家の秘蔵写真」を生んだのだと思う。全国連が発行している月刊「商工会」にこの「わが家の：」を私は「ユニークな企画／心あたたまる連載記事」として全国の読者に紹介させていたことがあった。

以上のべた二つの特長が根幹にあって「あち」が県会報コンクールで六十年最優秀賞、六十二年努力賞、平成二年優秀賞の受賞になったのだと思う。

三つ目の特長は、紙面全体が格調が高い、というか作り方がオーソドックス（正統的）なのである。例えば「編集後記」である。よその会報は内輪のたわいのない話で埋めているのに、「あち」は最下段全部を使って、世相を真正面から斬りおろしている。まるで「天声人語」を読んでいるようである。この真摯さに私は好感を持っている。

さて、ここで一つだけ注文をつけさせていたたく。硬派で辛口はいいのだが、「あち」には『遊び心』がない。都市部の商店街が発行している「タウン誌」の雰囲気をもど

こかに入れないと若者が読んでもくれないのではないかと心配している。

最後に会報を読んで下さる会員の方々に申し上げたい。優れた会報は、編集者からの一方通行では育ちません。優れた商工会報は『還流するメディア』です。どうか、編集委員に向けて、ばんばん声を発信して下さい。

双方向に声が流れる中で商工会という組織が活性化していくのです。

大内先生の紹介

- ・昭和30年 中央大学法学部卒業。
- ・昭和40年 総合ジャーナリズム研究所に入社。
- ・昭和53年 全国連発行の月刊誌「商工会」に「会報の作り方」等を6回にわたり執筆。
- ・昭和54年 この頃から、各県連が主催する商工会報編集者研究会の講師や、商工会報コンクールの審査を依頼される。
- ・昭和55年 全国連から「会報クリニク」を委嘱される。（現在も継続中）
- ・平成元年 25年努めた総合ジャーナリズム研究所を退社。新聞教育研究所を設立し、現在に至る。

シリーズ

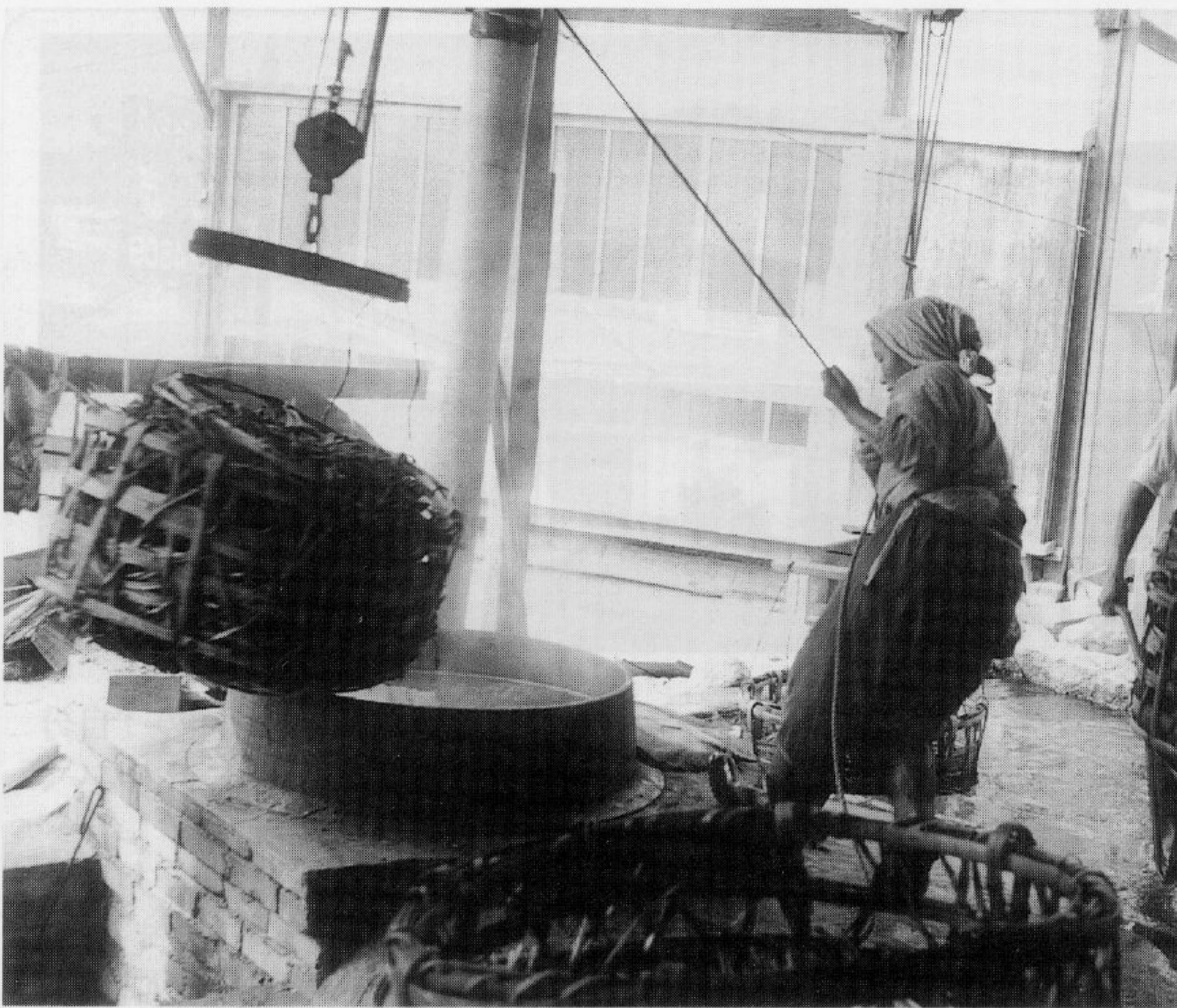
我が家の秘蔵写真

(有)正木屋商店
佐々木光章さん所蔵

第28回

正木屋さんは、先代の故・政直さんが、それまで行っていた菓子製造の仕事に加えて昭和三十七年頃より、漬物も始めるようになりました。ふき、わらびといった山菜類を生から茹でて、灰汁（あく）ぬきをし、塩漬けにした後、皮をむき、缶詰にして出

荷。塩尻で駅弁として売られる釜めしの具材として使われておりました。山菜も、近くの山で採れる量では足りず、遠くは北小谷地方まで仕入に出掛ける程でした。数年後には、自分の工場で漬けるだけではなく、近所の



第一工程の釜ゆで

家に、山菜の収穫から漬けるまで依頼するといったような外注的なことも行っていて、たくさん漬けてくれた方には通常の賃金に加え、お礼として、天竜舟下りへ招待するようないこともありました。今では機械化も進み、重い物はクレーンを使って運び、施設もコンクリートの立派な



最も手間のかかる皮むき作業の様子

ものになっていきますが、当時は、木のタルへ付け込み、工程のほとんどが手作業で、特に忙しい皮むきの時には、近所からたくさんの方に応援をしていただきました。その後は、山菜の需要が減ってきたため、現在も行っている梅漬けに変わっていきま

信金だより

三月、四月は新たな旅立ちの時期、そして生活が大きく変わる時期でもあります。

今、お子様の入学、または新旧ごとに教育資金にお金のかかる時代となりました。どのご家庭でも、これから先のことを考えた上でコツコツと定期的に長期にわたって積み立てていくことが大切となってきています。

信金アンパンマンの定期積金では、小学校、中学校、そして高校、さらに大学進学など、さまざまな場面で見なさまのお役に立ち、サポートをしていきたいと思っております。四月、お早めのスタートを！

IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫



Face to Face

企業探訪

No.40



<代表者> 竹村 学
 <創業> 平成11年7月
 <従業員> 4名
 <事業内容> 中華料理店
 (営業時間 午前11時30分～深夜1時
 定休日 毎週火曜日)

20歳の頃から料理人として腕を振るう、明るく気さくな店長、竹村学さんにお話を伺いました。

竹村さんは、26歳の時、単身でミャンマー（旧ビルマ）に渡り、在ミャンマー日本大使館で、大使の専属料理人を務めるなど、大変貴重な経験をしています。



バイキング料理の一部



3年半ミャンマーに滞在し帰国後、念願の「自分の店」を持つことになり、一般の飲食店には少ない、バイキング料理に目を向けました。

取り扱う料理も、中華料理と決め、昨年7月、中華バイキングの店「まな〜ま」がオープンしました。

メニューも、ランチ、ディナーバイキングに加え、飲茶ランチや、鍋料理、素材や味にこだわった高級中華コース等、多彩な内容で、1～3カ月の周期で新しいメニューが楽しめます。また、夜9時を過ぎると、二次会プランとして、深夜1時までくつろぐこともできます。

今、お客様が本当に食べたい料理をつくり、お客様に喜んでいただく。お客様の笑顔が、一番の活力とひと言。

今後も、お客様に料理で恩返しをする気持ちを忘れず、子供からお年寄りまで、たくさんの方が気軽に足を運べる店にしたいと抱負を語ってくれました。

婦人部講習会
健康のツボ指圧して元気いっぱい

副部長 内田悦子

二〇〇〇年一月二十五日、指圧が招く健康生活（日本指圧専門学校長）浪越満都子先生をお迎えして、元気に働くための健康のツボのお話をしていたできました。朱色のスーツが似合う、お年よりは十歳以上も若く見える、元気いっぱいの先生でした。

元気のツボを頭の先から腰のあたりまで、時間のある限り説明を聞きながら、実際に隣同士で指圧し合いました。普段あまり動かさない首、腕、腰、肩など、自分ではそんなに凝ると思っていなかったのに、指圧してもらった



参加した部員の皆さん

んと痛いこと、「この痛さの分だけ凝っているんだな」と実感。また、毎日少しずつ行うことで美しくなれるツボ（のどの所を、あご下より三ヶ所、三回ずつ右側、左側と片方ずつ押す）も教えていただきました。

「今回参加出来た方、きっと美しくなれますよ。」

講習会終了後、光風館さんにて新年会を行い、精一杯のおもてなしをいただきお腹もいっぱい。中山会長さんを始めに、歌や踊り（世にもめずらしい踊り）と、楽しく会員の方々と親睦を深めることが出来ました。



元気いっぱいの浪越先生

指導カルテ

⑥ コンピューター
西暦二〇〇〇年問題の教訓

経営指導員 佐々木 信 高

動向が注目されていた「コンピュータ西暦二〇〇〇年問題」は、特に大きなトラブルも無く、新年をむかえることが出来ました。

この問題も、かつて世界中の誰もが経験した事が無く、「ミサイルが発射する・原子力発電所から放射能が漏れる・

飛行機が落ちる」と言われ、身近では、「ライフラインがストップする」とまで言われていました。

政府も、かなり前から、安全対策や生活用品の備蓄等の措置を講ずる様、政府広報を流して危機管理の徹底を図っていました。が、何事も無く幸

いであつたものの、この事で笑つた人(潤つた人)、泣いた人、怒つた人等、様々あつたのではないのでしょうか。コンピュータが無ければこの問題も無いはずで、これだけ全世界が不安になつたのも、世界の隅々までコンピュータが行き渡り、生活の一部となつていふことではないでしょうか。

今回の教訓では、人間が造つた物によって、人間がこれを使いこなせず、振り廻されて

しまったと言ふことではないでしょうか。

今やコンピュータは、人間の目、耳、手、足、頭脳となつており、我々もこれに慣らされてしまつています。

また、この分野も、インターネットを通じた電子商取引等脚光を浴びているところでもあり、コンピュータが無い生活は、今後とも考えられないと思ひます。

人間は、失敗を通じて経験を積み、新しく成長をしていきますが、今回の問題を通して、コンピュータ分野の更なる成長を願うものです。

新春講演会・接客講習会開催される

去る一月二十八日、ジャーナリストの孔健先生を招き、「孔子の経営学」と題し新春講演会を開催しました。また、二月十七日には、接



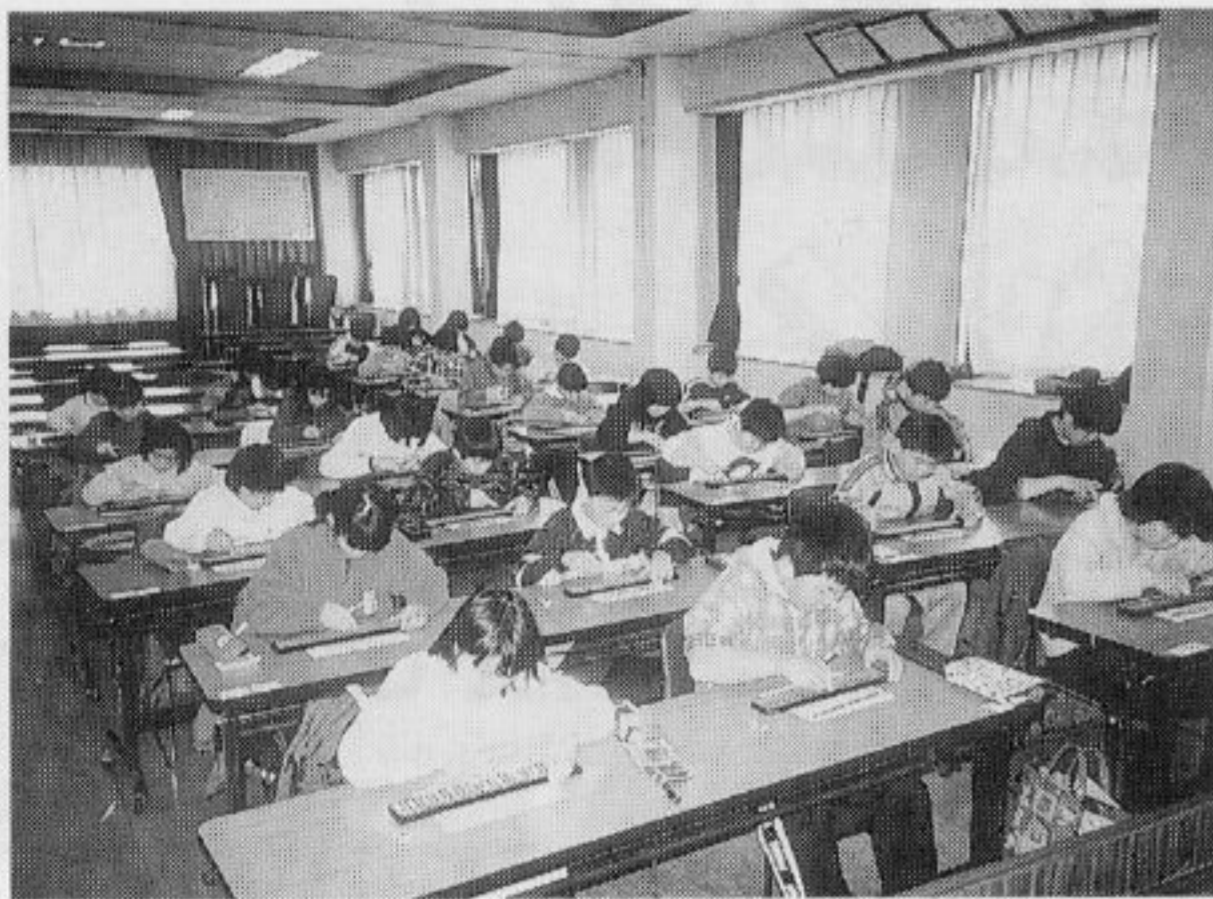
今回の「使いこなせず振り廻される」を、企業経営に当てはめてみますと、ハード面では、不相应な工場・店舗の建築をしてしまい、それが有効活用されず固定資産税・光熱費等にムダが生まれてしまふようなケース。ソフト面では、実態にあつていないマニュアルや、規則等によって振り廻され、かえつて効果が落ちてしまふケース等があるかと思ひます。



客講習会を実施し、接遇インストラクターの大橋美恵子先生より、「お客様の心にひびく接客とは」のテーマで、お話を伺いました。

珠算検定合格おめでとう

二月二十日(日)に商工会館で実施した、第百十六回全国商工会珠算検定試験



最後になつた検定試験

の合格者は、次の皆さんです。

二級 三輪真由佳 松下千

秋

三級 井原麻美 鈴木 豊

四級 荒井春樹 山内朝美

河合和也 河合あか

り

五級 熊谷直樹 林 弘樹

熊谷理香 黒柳有紀

園原明日加 小林智

子

六級 木下教子 松井優季

香

今回の受験者は九十名、合格率は、一七・七%でした。



珠算検定委員による採点の様子

なお、長野県商工会連合会では、受験者数減少等、諸般の事情により、平成十二年以降の珠算検定試験は、実施しないことになりました。

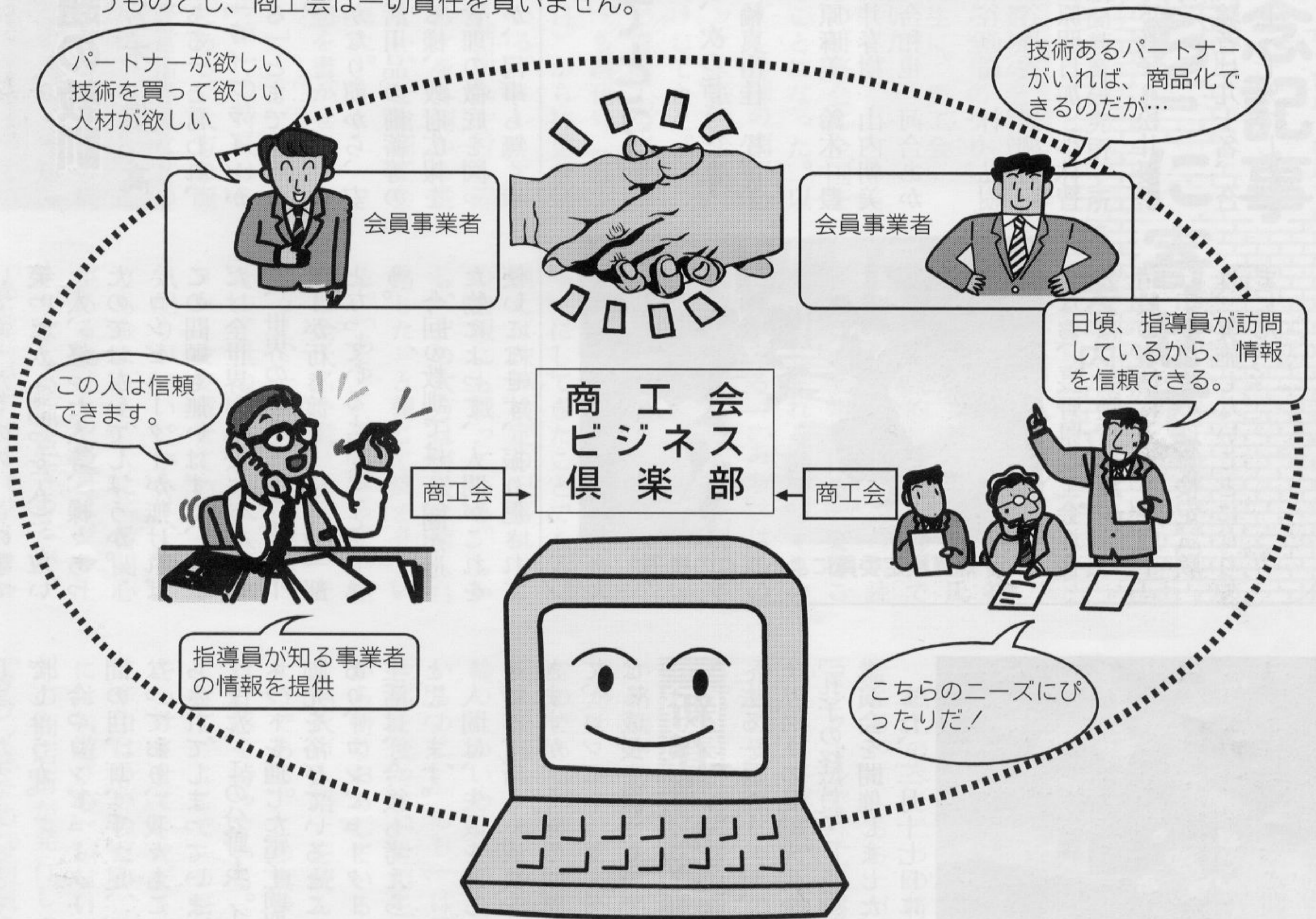
商工会ビジネス倶楽部に 参加しませんか！

—取引先、パートナーetcを探している企業を支援します—

全国約2,800商工会のネットワークに情報提供しませんか。

商工会では140万会員をネットワークで結び、販路開拓、事業多角化などを目的とする企業のお見合いをお手伝いいたします。

(注) 情報の内容によっては、お断りする場合があります。取引に関しては企業の自己責任において行うものとし、商工会は一切責任を負いません。



商工会ビジネス倶楽部に関するお問い合わせは、阿智村商工会(☎ 0265-43-2241)まで

編集後記

西暦二〇〇〇年も、早三ヶ月が過ぎようとしています。心配されたコンピュータのトラブルもなく、一安心です。ぼつぼつ新年度事業の立案が始まっていると思います。国内景気は緩やかな回復に向かうが、個人消費の行方が…。私用で今月初めに東京へ出かけたが、街を歩いても暗い感じはないように見えました。大いに活性化になるイベントにより、「消費拡大・景気回復」の足がかりとなるよう願うものです。

来年度より県下商工会の珠算検定業務が廃止となります。多くの一級二級の合格者を送り出した関係各位の御尽力に敬意を表します。

昨年より観光協会事業の見直しを、改革準備委員会に於て検討しています。従来は商工会観光部と協会との事業でしたが、昼神温泉の発展と共に観光立村の方向に進み始めました。郡下の観光を視野に入れ、新たな取組みが必要です。

会員各位のご意見を、ご投稿頂きたいと思っております。

編集委員長 井原忠亮